

# 〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2017年助成団体活動成果レポート

## 助成団体

### 特定非営利 活動法人 公益のふるさと創り鶴岡

山形県鶴岡市

#### プロジェクト名

## 鶴岡山王商店街にある明治時代に建造された空き店舗《旧新穂醤油店》を 若者の活動の場として活用するプロジェクト



### ■地域の紹介

鶴岡市は、山形県の日本海沿岸(庄内地方)南部に位置する都市。鶴ヶ岡城周辺の中心市街地は江戸時代には鶴岡藩(通称庄内藩)の城下町として栄えました。郊外には庄内米やだだちゃ豆の産地が広がります。

### ■地域の課題

鶴岡市では老朽危険空き家を解体、整地し、若者世帯・子育て世帯・移住希望者に住宅用地として供給する「鶴岡市中心市街地居住促進事業」が進められています。鶴岡市山王商店街においても「虫食い状態になりつつある商店街の街なみの維持」が課題となっています。

### ■当団体の紹介

2001年に庄内市民活動センターとして組織を立ち上げ、2005年に「公益のふるさと創り鶴岡」と名称変更し、市民活動グループへの支援や、地域づくりに関わっている団体相互のネットワーク化を推進しながら、市民参加型のまちづくり事業を実践。NPOや市民活動の活性化を目指すなかで、市民一人一人の自立を推進することを目的としています。



## ■背景・目的は？

課題解決の手法として、空き店舗となっている建物をリノベーションし、若手経営者にテナントとして入居してもらうことを目的に、商店街内の「町家(旧新穂醤油店)を改装し、「起業家のためのインキュベーションスペースと居住スペースの整備」を行っています。この空き店舗を当団体と商店街と「鶴岡ナリワイプロジェクト」と協働して、若者が活躍できる場として活用することを目的とします。

## ■具体的な活動は？

### ▪【第一回】空き店舗を考えるまちづくりワークショップ

東北公益文科大学特任教授の平尾清先生をアドバイザーに、そもそも衰退している商店街をどうしたら活気のある街にしていけるか、マーケティング論の観点からレクチャーしていただきました。

参加者12名

2017年11月17日 19:00～21:00

講師：平尾清

会場：山王会館

### ▪【第二回】空き店舗を考えるまちづくりワークショップ

趣味ナビの社長佐伯晋吾氏より「モノからコトへ」の観点から商店街でのミニコミュニティの発想とSNS等による情報発信についてレクチャーを受けました。

参加者 21名

2017年12月13日 19:00～21:00

講師：佐伯晋吾

コーディネーター：平尾清

会場：山王町江鶴亭

### ▪【第三回】空き店舗を考えるまちづくりワークショップ

以前、山王まちづくりプランを策定した川原晋教授(首都大学東京)をお招きしてのワークショップを開催しました。

参加者18名

2018年6月11日 9:00～21:00

講師：川原 晋

会場：旧新穂醤油店

### ▪ 2018年5月～8月 第三土曜日／ナリワイ実験 座敷市

会場：旧新穂醤油店

### ▪ 2018年9月～／リノベーション・設計ワークショップへ展開（やまがた社会貢献基金助成）



第一回ワークショップ



第三回ワークショップ



ナリワイ 座敷市



展示およびナリワイ 座敷市



外観イメージ



外装の模型



内装の模型



ナリワイ報告会

## ■活動の成果は？

当初、旧新穂醤油店は明治期からの商家の面影を残す貴重な建物ながら、「負資産」というレッテルを貼られ、更地にするしかないと言われていた建物でした。この貴重な歴史的文化的財を何とかしたいという商店街としての思いを受け、当団体ではその管理と活用方法を考えてきました。今回のプロジェクトを実施したことにより、商店街関係者とナリワイづくりプロジェクトメンバーの協力の元、この建物を取得するオーナーが現れ、維持への方向に向かうこととなりました。これで、歴史的建造物である旧新穂醤油店が取り壊されることなく保存・維持するという当初の目的の一つが達成できました。さらには、こういった一連の動きを作れたことにより、商店街関係者・ナリワイづくりメンバー・行政・企業がこの取り組みに関心を持っていただきました。その結果、この建物に魅力を感じ取得したいというオーナーがあらわれ、リノベーションを経て活用につながったことはこのプロジェクトの大きな成果です。

## 団体からのコメント

2018年9月からは実際、建物のオーナーの意向をくみながらリノベーション計画・基本設計・活用計画に進むことができました。2019年4月からは工事が始まり、10月におやつと居場所古今coconという店名でグランドオープンしました。出来るだけ地域に寄り添ったまちづくりの支援活動をすることを目標に、今後も行政だけではできない、市民だけではできない、それでも問題は山積といった課題解決型のプロジェクトを進めていきます。18年目を迎える当団体ですが、理事の刷新・後継者の育成など組織体制の見直しをはかる時期となっています。事業継承や事業内容の見直し等が課題です。

